

AI時代の仕事術

第1回

独立の失敗事例から学ぶ専門性と人間性 近い将来どう働くのか？「稼ぐ人・安い人・余る人」

開催日: **2019年5月20日**

会 場: 千代田プラットフォームスクエア 503

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21

TEL 03-3233-1511

開 場: 18:30

開 演: 19:00

終 演: 21:30

参加費: 3,000円(当日、現金で・領収書発行します)



主催・講師: 有限会社 テオリア 池田秀敏

1. 講座概要 「講座の目的」

■講座の目的

日々急速に加速するIT化、そしてAI技術の進化は目覚ましいものがあります。職業の多くが人工知能(AI)やロボットに代替されるため無くなると言われています。肉体労働や単純作業などのほとんどがAIに代替され、人間がやる必要がなくなります。これをマイナスで考えると、AIに仕事を取られるということ。プラスで考えると、肉体労働や単純作業からの解放です。働くという意味が大きく変わってくることは間違いありません。今まで、経験年数や知識量で「稼ぐ人」だった人の出番はもうありません。勤務時間をベースに賃金が決まっていた人は、確実に「安い人」か「余る人」になります。

これからの働く人に求められるスキルは圧倒的な能動思考です。つまり自分で問題点を見つけ解決しようとしたり、自ら新しいものを生み出そうとしたりを求められます。この変化の上に、実力を伸ばしていく人がいる反面、変化に対応できない人が生まれます。**会社は、「人材の能力を使い、会社の仕組みを通して経済的価値を生み出す装置」です。**より高い業績を目指すために、できるだけ優秀な人材を投入したいと考えます。コストは削減した分だけ利益になるので人件費は世界で一番安い国へ、安く使える人に移ります。

社会の変化が激しい時代には、人材に求める優秀な基準はどんどん変化していきます。会社の立場では、長期雇用を前提として正社員を雇うのはリスクです。年功序列賃金制と終身雇用はもはや大昔の話し、定年後安心できる額の退職金は払えません。社員の立場でも、もはや正社員が得をする時代は終わりを迎えつつあります。

正社員に代わり、増加していくのがフリーランスです。会社にとって必要なときに必要な人材を確保するために最も都合が良いのがフリーランスです。プロジェクト単位に必要な時に必要な人材を雇い、プロジェクト終了で契約を終了することで経費を最小限にできます。フリーランス側からも興味がある仕事や身につけたいスキルに絞ってキャリア形成できるというメリットがあります。そもそも雇用が不安定な時代には、自分の力で生きていくしかありません。会社に大きく依存して、自分の実力を高めるキャリア設計できない方が大きなリスクです。

今は、一つの会社で定年まで働くスタイルの転換期であり、自分らしい働き方を問い直す絶好の機会です。なりたい自分をイメージしながら、日々の仕事を通じ自分の「強み」を磨き、豊富な経験を積むことと、これからの働き方を考えることが誰にとっても重要なことです。雇用の安定がますます揺らぐこれからの時代、求められる人材であり続けるためにはスキルを主体的に磨き続けることが充実した社会人としての基盤となります。

これからは誰でも

「あなたは、何ができますか？、どんな貢献ができますか？」

と問われ続けられます。

それに

「どう考えるか・どう答えられるか！」で人生の可能性が大きく変わることになります。

自分は、どこでも活躍できる人材なのか？



と、常に意識し変化の激しい社会の中でも「必要とされる人材」であり続けることが必要です。

そして、「自分はこれで稼ぎ続ける」というコアスキルを明確にすることが必要です。若い時は、それが明確にできないと思いますが目の前の仕事を一生懸命のやることと現場で「気づき・考え・工夫した」ことをアウトプットし積上げることで「強み」が見えてきます。10年・20年と時間をかければ、日々の小さなことからでも大きな蓄積になりパワーを持ちます。年配者でも心配いりません、過去に遡って思い出して書き出しましょう。ちゃんと仕事をしてきた人なら、過去にたくさんの「学び」があります。自分の「強み」として発信しましょう。

これからは、組織や企業という概念、枠組みさえ薄まってしまうかもしれない時代です。そこで「個」として、戦う上で必要な基本姿勢やスキルを磨き続けていきましょう。

2. 講座概要 「対象者・狙いゴール」

■対象者

- ・自分の「強み」を明確にして組織で活躍したい人
- ・フリーランスとして自由に働きたい人
- ・自分の「強み」を積上げるために図解コンテンツに興味がある人

■狙い・ゴール

- ・AI時代に組織に頼らない実力を身に付けるための出発点とする
- ・どうやったら競争力のある「強み」を積上げることができるかを理解する
- ・フリーランスとして独立するための心構えや準備を理解する
- ・講座の図解コンテンツを自分の体験をコンテンツ化する参考にする

■第1回の講座テーマ

独立の失敗事例から学ぶ専門性と人間性

～近い将来どう働くのか？「稼ぐ人・安い人・余る人」～

AI時代には、収入格差が大きくなります。

キャメル・ヤマモト氏は、「稼ぐ人・安い人・余る人」と定義しています。

あなたは、どの人になりたいですか？

これまでのように正社員になって、会社の指示に従って、一生懸命頑張れば、

- ・「稼げる人」になって、充実した社会生活を手に入れることができるでしょうか？
- ・人生100年時代と言われているこれからは、豊かに生活していけるでしょうか？

もう会社に依存して生きていくことはできません。

正社員であろうとフリーランスであろうと、どんな雇用形態でも自分の存在感を示し「頼りになる・役に立つ・安心して任せられる」という評価される人材になることが必要です。

そのために土台になるのが

- ・**専門性**: 専門家としての高いレベルの知識・経験を持つ
- ・**人間性**: また会いたい・一緒に仕事をしたいと感じてもらう

この2つです。

仕事ができるだけでも・良い人と言われるだけでもダメです。

第1回目は、独立の失敗事例から、各自が自分の専門性・人間性を考えます。

(※ワークシートの練習、発表があります)

●独立して失敗した事例+成功事例

1. 大手メーカーのマーケティング部の部長が起業を目論むが定年後に起業をもくろんだが、立ち上げることすらできなかった。
(聞き出せば実力がある、定年後に1年間アメリカ留学もした、でも自分では立ち上げられなかった)
2. アメリカの大学を出てVCから投資を得た起業家
新商品を企画して売り出しを計るが、あっという間に頓挫
(確かに頭は良かったが、自分が一番頭がいいからと部下の意見は聞かない)
3. 30代半ばで年収1千万円の営業マン会社への不満から独立
会社の評価が低いからと独立を考えるが、立ち上げることすらできなかった
(経営分析のソフトを販売する、唯一の営業マンだった、当時7000万円ほどの家も購入)
4. 中小企業で「自分はある」と思っていたが得意分野がない独立
名刺の裏に、あれも・これもとたくさんの仕事メニューが脈絡なく羅列
(何人もいました、言われるがままに仕事を受けて、あれもできる・これもできると..)
5. 中卒で工場の組立て工として就職、転職を経て独立
組立て工をしながら製造ラインの生産性向上を提案して実績を上げ、工場の改善部門の長へ
(3冊の本を出版、コンサルタントとして講演などもこなす..)

3. 働く人が厳しく選別される時代に「稼ぐ人になれるか？」

「稼ぐ人、安い人、余る人」あなたは、どの人になりますか？

人材、組織コンサルタントとして活躍してきた著者がその経験から定義しています。

稼ぐ人、安い人、余る人—仕事で幸せになる [単行本]

著者: キャメル・ヤマモト

出版社: 幻冬舎 (2001/08)

著者の定義では..

- 稼ぐ人: 1割
自分が勤める企業を辞めても稼ぐことできる実力を持ったタレント
- 安い人: 8割
パートタイマーのように、単純労働を切り売りする人
- 余る人: 1割
給料に見合う働きができないと評価をされ勤務先から「辞めて欲しい」といわれる人

誰もが、自分は「どう働くか」意識し続けることが必要な時代になりました。

ネットの進化やグローバル化によって、世界の中で一番安いところに仕事が行きます。もう国内だけの競争ではありません。

そこに、AIなどの技術の進化が追い打ちをかけてきました。

これまで習熟度や知識量で「稼ぐ人」だったとしても、AIには太刀打ちできません。

では、どうやったら「稼ぐ人」になれるのか？

仕事を改善しAIに仕事を教え込むようなノウハウを生み出し続ける力がある人です。

知的価値を生み出せる「知の力」を持つことが「稼ぐ人」なるための条件です！

あなたは、どう働きますか？

<http://www.teoria.co.jp>

競争社会では人が能力と実績で選別されます
公平ですが非常に厳しいのが現実です
あなたは「稼ぐ人・安い人・余る人」のどれを目指しますか？

キャメル・ヤマモト氏は..
「稼ぐ人、安い人、余る人」と3つに定義しています

稼ぐ人	自分の能力でお金を稼ぐ力を持っている人 責任のある仕事をして高い報酬を得ることができる人 自立して自分を活かす会社や職業を選択できる人
安い人	誰にでもできる作業をして時間給で収入を得る人 長時間労働をしないと生活を支えることができない人 上司やマニュアルの指示に従って作業を繰り返す人
余る人	どの会社でも、どんな仕事でも、使ってもらえない人 就職の面接を受けても採用されない人 働く場がない..



出版社: 幻冬舎
著者: キャメル・ヤマモト
「稼ぐ人、安い人、余る人」

資本主義社会では厳しく選別されます



あなたはどちらで稼ぎますか？..

- 時間(単純労働)で稼ぐか
- 頭(能力)で稼ぐか、余るか？！

4. アウトプットしていないと専門性を発信できない・活かせない！

これからは、誰もが問われます！

- ・あなたは、何の専門家ですか？、何ができますか？
- ・あなたは、どんな貢献ができますか？

40代、50代と進むと他人に誇れる・頼りにされる専門性を持っていないと悲しいことになります。

下の図の「得意と言えるモノが無い」人は論外です。ハローワークにたくさんいます。

問題なのは「得意分野がある？」と思っている人です。

自分には実力があるんだと言っても、「どんな実力で、どのような貢献ができますか？」という問いに「〇〇会社で、〇〇部長だった！」という返事が返ってきます。ピントが外れすぎです。

「指名される専門家！」との違いは簡単です。

自分の専門性をオリジナルなノウハウとして文書で書きだすことができているか、ということです。アウトプットできていないと「場」を与えられたら活躍できる、サラリーマン専門職にしかたれません。

アウトプットすると、体験がノウハウとして積み上がり、WEBや文書で発信しやすくなります。

そのノウハウを欲しい人から声がかかり、活動の範囲と可能性が広がります。

これからは、この広がりが会社にとっても重要な成長を支える要素となります。

オリジナルなノウハウとは自分の体験の中から学び得た問題解決の手法です。

書き出すことで、「冷静に見つめ・筋道が通り・価値としての完成度が高まり」役に立つノウハウになります。

書いていないと、自分は分かっているつもりでも、論理で他人に教え納得させることは難しいのです。

若い時から、仕事の現場で「気づき・考え・工夫する」ことをコツコツ書き溜めることで価値が高まります。

中高年でも遅くはありません。考えながら一生懸命に働いている人なら必ず過去に「学び」はあります。

過去の出来事を思い出し書き出すことです。自分は「何の専門化なのか！」が明確になります。

アウトプットすることで、だんだん自分の持っているノウハウが見えてくる！

中高年になって出番のある人・出番のない人

<http://www.teoria.co.jp>

copyright (C) Hidetoshi Ikeda All rights reserved



得意と言えるモノが無い

一生懸命頑張ります

得意分野がない。
誰でもできることを
頑張るしか無い
働く場を与えてもらう



何をやっても人並
新人レベルの実力
「頑張ります」が売り



代替可能な人材

得意分野があるの？

〇〇を□□年経験しました

〇〇部長でした、
任せてください



得意を
論理で
語れない

武勇伝
自慢話
は雄弁



サラリーマン専門職

指名される専門家！

〇〇についての専門家です

独自に積上げた
ノウハウがあります



文書で
見せられ
教えられる

組織と
対等な
契約



本物の専門家



これからは誰でも
「あなたは、何ができますか？、どんな貢献ができますか？」
と問われ続ける！

「どう考えるか・どう答えられるか」で人生の可能性が大きく変わる

5. 仕事の実力は総合力「だから誰でも戦える」

仕事の実力とは、仕事の実力の構成要素とは何でしょうか？
 どんな勉強をしたら実力アップできるのでしょうか？

働く人の「仕事の実力」は、みんな違います！
 頭の性能が良く、誇れる学歴があることが、業績をアップする「仕事の実力」になるのでしょうか？
 海外留学経験、大学院卒、有名な大学を卒業した...
 それは、それで立派な経歴です。優秀な人と思います。
 でも、その学歴という要素の一面だけを見て、実力の優劣を判断することは危険です。

これまでたくさんの人と会って仕事をしてきた経験から考えると
「仕事の実力」とは、8要素の総合力 です。
 総合力なので、誇れる学歴が無くても頭のCPUレベルが低くても戦えます！
 普通の人が10年かかることを、優秀な人なら3年でできるかもしれません。
 でも、3年やっていないのであればゼロです。
 10年蓄積した人との実力差は明らかです。
 仕事は、多様な分野があります、一人で全てできるものではありません。
 得意分野を絞込み、10年・20年・30年と時間をかけてコツコツ積上げれば戦えます。
「継続は力なり」です、コツコツ積上げれば誰でも競争力は高まります。




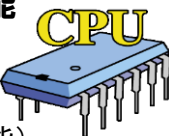





つい資格を取れば良いのか考えがちですが、有資格者同士の競争があります。
 資格を持って活躍している人は、その資格の上に経験で積上げたノウハウを持っています。
 そのノウハウで競争力を高め、活躍しています。
 どんな分野でも活躍するには、コツコツ積上げた総合力で勝負することが求められます。
競争力の高い実力を身に付けるには、8つの要素を考えて日々コツコツ積上げる！

仕事の実力を決める8つの要素

<http://www.teoria.co.jp>


 copyright (C) Hidetoshi Ikeda All rights reserved

学校での成績が良かったから... 自慢できる学歴があるから...
 それだけで仕事の実力があるとは言えません！

<p>人生の目的</p> <p>人生の目的 将来の目標 意欲や動機</p> 	<p>受取る力</p> <p>感じる力 読む力 聞く力</p> 	<p>応援してくれる人</p> <p>人脈 協力者 メンター</p> 
<p>頭の性能</p> <p>基本的な 頭の良さ (CPUとしての性能)</p> 	<p>実力を決める要素</p> <p>差がつく 8つの違い！</p> 	<p>考える力</p> <p>考える技術 考える体験</p> 
<p>知識・経験</p> <p>知識の量 経験の量</p> 	<p>伝える力</p> <p>伝える力 書く力 話す力</p> 	<p>行動力</p> <p>行動力 体力 健康</p> 



仕事の力は、頭のCPUとしての性能だけで実力は決まりません、中卒でも優秀な人はいます。
仕事の実力は総合力です！... CPUが高くて他が駄目だと良い仕事はできません

6. 組織に乗って仕事ができただけの人・自分の実力で勝負できる人

独立すると、実力が明らかになってしまいます。

- ・会社の仕事の仕組みによって成果を上げた人(組織に乗っただけなのに、自分の実力と過信)
 - ・自分の努力や能力で成果を上げた人(会社の仕組みの弱さを、自分の工夫や努力で補った)
- 誰が考えても、どちらが成功するか分かります。

自分の実力を知って独立する？

自分の実力を過信して独立する？

会社の仕事の仕組みに乗っただけで成果を上げていた人は、自分の実力で成果を上げたと勘違いしています。

会社の用意してくれた仕事環境の重要性を理解できていないのです。

魚には水が見えず、人には空気が見えません。無くなったら、生きていくことはできません。

大企業や役所には、仕事を運営していく完成度の高い「仕組み」があります。

その上に乗って仕事をしていくと、誰でも相応の成果を上げることができるようになっていきます。

それを、すべて自分の実力を勘違いしてしまうのです。

その「仕事の仕組み」のありがたさが分かりません。

問題なのは、その「その仕事の仕組み」の存在を知らない人です。... **間違いなく存在します**

独立すると会社の看板も無くなり、生身の自分が試されるということが理解できないのです。

生身の自分しか頼れないのに、意識は大きな会社の社員だった時の、上から目線で話し行動します。

言っている事と、できることに大きな落差があるので、まわりから、だんだん相手にされなくなります。

そして、多くの人は1年程度でサラリーマンに戻ります。

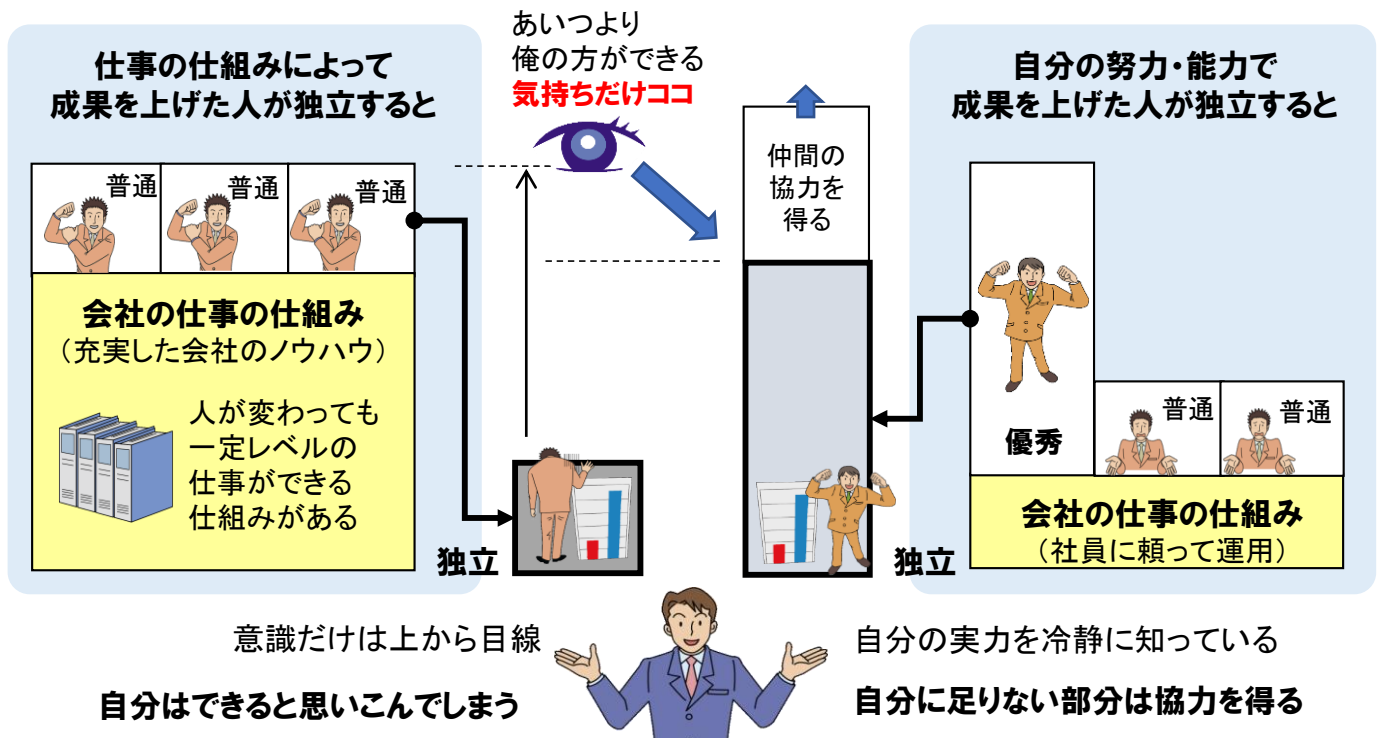
独立前に、自分の実力を日々少しづつ高めていくことが必要です。

独立して成功するには、自分の本来の実力をしっかり意識し高めることが必要！

独立したときに見えてくる実力

<http://www.teoria.co.jp>

copyright (C) Hidetoshi Ikeda All rights reserved



会社の仕組みに頼って仕事をしている人は、一人になると結果を出せない

7. 自分の「強み」を育て、競争力を高めることが必要

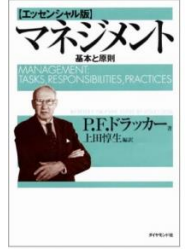
どんな仕事も、一人で完結する仕事はありません。
誰かと協力し合わないと良い仕事できません、広がっていきません。
それは独立すると実感します。

会社員の時は、自分の担当分野だけやっていたら良いのですが、
独立すると、やったことのない仕事、不得意な仕事がたくさんあります。
その弱い所や不得意分野がネックになります。(技術があっても、営業や経理が苦手など)
自分の弱みや不得意分野をどうするか？

それには

- ・自分の「弱み」を、誰かの「強み」がカバーしてもらい
- ・自分の「強み」で、誰かの「弱み」をカバーする

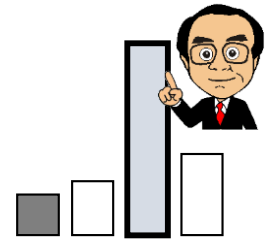
という仕組みが必要です。



ここがポイント
低いと声がかからない

ピータードラッカーは、
マネジメントを「**組織を構成する人が、その人の強みを活かして成果を上げ、
自己を実現し、弱みを無力化するように組織を運営する方法**」
と言っています。

弱みや不得意分野をカバーしあう仲間や仕組みが必要です。



でも、そのために最も重要なことは、自分の「強み」に競争力があることです。

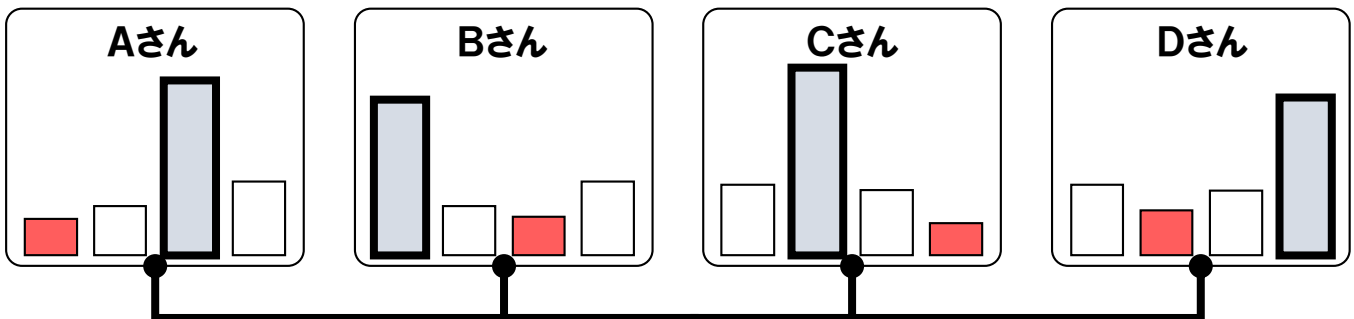
自分に「強み」がない、または競争力にならないレベルだと、誰からも相手にされません。
協力しあう関係は、分野は違えども競争力の高い「強み」を持った人同士でしか成り立ちません。
問題なのは、実力はあるのにそれを正しく発信できない、協力者に理解してもらえないことです。
大切なのは、競争力のある「強み」を磨くこと、それを正しく発信すること！

「強み」を集めて「弱み」を無力化する

<http://www.teoria.co.jp>

copyright (C) Hidetoshi Ikeda All rights reserved

仕事をしてるのは「人」だから
担当する「人」によって「強み・弱み」がある



みんなの
・強み
・弱み
を集める

- ・自分の「弱み」は誰かの「強み」がカバーしてくれる
- ・自分の「強み」は誰かの「弱み」をカバーする

会社は
「個」で活躍できる人材の
集まりであることが理想

組織は、一人でできない成果を産出するためにある

8. 自分の専門性と人間性が可能性を広げる鍵

独立すると最も重要なことは、誰かから頼りにされ声がかかることです。
この頼りにされるために専門性がなくて、声がかかるには人間性が問われます。

では、専門性とは、どうやったら身に着くのでしょうか？

2つの「学び」が必要と考えます。

- ・**学習**: 習って学ぶ、先人の知恵を勉強する、誰かに教えてもらう、テキストで勉強する
→ 研究するための基礎・理解の体系を学ぶ
- ・**研究**: 現場で「気づいて・考えて・工夫する」、現場体験からノウハウを導き出す
→ テキストのない世界に踏み込みテキストを作成する

専門性を磨くには、先人の知恵を学ぶ「学習」と、現場で学ぶ「研究」の両輪で進めていく。

でも、専門性が高くても仕事の声がかからない人がいます。

組織で使えない人とか、空気が読めない、人間関係が上手く築けないとか、
「また会いたい、一緒に仕事がしたい」と思ってもらえないと声はかかりません。
専門性が高くても、嫌いな人とは仕事はできないからです。

では、人間性とは

- ・**考えていること**: 普段何を考えているのか、夢や理想、人生観や価値観
 - ・**行動すること**: 考えていることを実行する、新しいことに挑戦していく、細かな気配りがある
- などの日々の発言や行動がもととなって人柄や人間性が伝わります。
その日々の積み重ねで人間関係(人脈)が出来上がっていきます。
何年たっても同じような夢ばかりを語り、何の行動もしていないと信用も信頼もされません。

専門性と人間性は、ビジネスマンとしての人生の可能性を広げる土台となる！

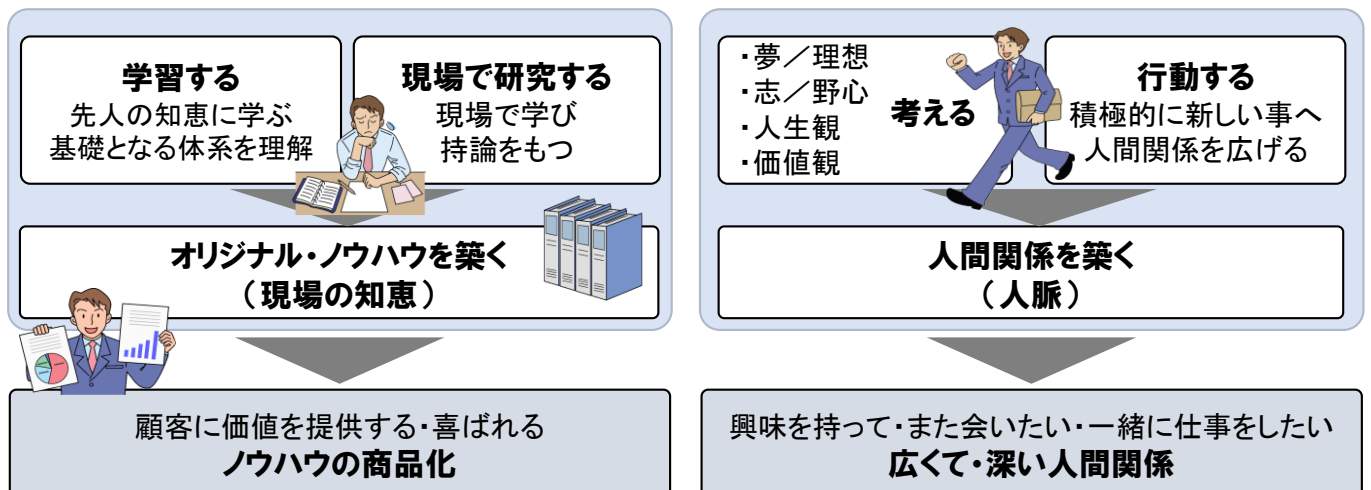
自分の可能性を広げる「専門性・人間性」

<http://www.teoria.co.jp>

copyright (C) Hidetoshi Ikeda All rights reserved

専門性

人間性



頼りにされる「自分のブランド」
(選ばれる理由)

共感される「自分の生き方」
(日々の積上げ)

頼られ信用してもらい、声がかかり活躍できる土台